第一章　この土地に移り住み、商いをして暮らしていたある夫婦がこの家を建てたのは、1958 年のことです。近所には小さな映画館もあります。そうして建てられたぴかぴかの木造 2 階建ての一軒家で、夫婦と孫娘との三人の生活が始まりました。寒い冬のその女の子の布団の中は、いつも湯たんぽでほかほかに温められていました。1960 年代の半ばに、女の子が東京の大学に進学すると、夫婦二人の丁寧な生活が少し続きます。

第二章　1970 年代に入りピアノが上手なお姉さんと、賢く足が速い弟の兄妹がこの土地に転校してきました。庭が広く小学校にも近いこの家をとても気に入った両親は、ここを借りることにします。兄妹は田んぼのあぜ道を通って通学しました。映画館はもうなくなっていますが、駄菓子屋やそろばん塾、お習字教室が近くにあり、兄妹の友達など子供たちがこの家を多く通ります。

第三章　1980 年代〜2011 年はとても静かな時間が流れています。そうして発見されるのを楽しみに待っています。はくびしんの親子は、短い期間ですが、2 階の部屋を住まいとしてくれました。１０代の女の子達の秘密の場所として選ばれ、ダンスの練習場となったこともあります。

第四章　2011 年 3 月 11 日の地震をきっかけに続く災害と事故は、静かに雨戸を何十年も閉め切ってきたこの家にも変化を与えます。町の人々の帰還を目指す住宅の除染作業が翌年から始まると、敷地をはみだし、思うがままに伸び、実を付ける柿の木や、元気な植物たちは根こそぎ撤去されました。敷地の裏の美しい水田は、手入れをする人を失い、草原の風貌を見せています。

第五章　2016 年、「縁側の家」が始まります。この家は、ほんの少しの修理を加えただけのこれまでと変わらない姿でここにいます。そしてピザ窯やアート作品を囲む訪問者らと共に愉快な気持ちでいます。

えいのわがんえ

縁側の家は、福島県浜通りにあるカルチュラル・プラットフォームです。
土地や境界、身体をテーマに活動をしています。

- イベント開催（「3 月 11 日に波に乗ろう」、コンサート、展覧会他）
- クリエーター & サーファー・イン・レジデンス、コミュニティスペース
- オリジナル作品制作（小説 静かな身体）

イベント情報（常設展あり）や見学のご連絡等は
QR コード（engawanoie.jp）をご覧ください。

主催：高橋優子（たかはし ゆうこ）

福島県双葉郡広野町生まれ。外国航路の船乗りの父と大らかな母の下、弟（ひでシェフ）と共にのびのび育つ。東京学芸大学大学院修士課程修了（音楽学）。ドイツ、オーストリアを経て、現在は東京（スイス）と広野町との２拠点生活。愛する仲間や家族・サーフィンでいっぱいの日々。

本展は研究課題「コンポスト・インクを用いたカタログを起点とした現代の環境問題に対するデザイン実践」（追手門学院大学個人研究費、松谷容作）との共催で実施されている。